



そよかぜわたる あさのまど はたらく手のひら あわせつつ
南無阿弥陀仏となうれば しんらんさまは にこやかに
わたしのとなりに いらっしゃる
「しんらんさま」より



鈴鹿組二十五日講が亀山市
市瀬西願寺様にて勤修され、
沢山の参詣で賑わいました。
ご講師岐阜教区光宗寺辻良尚師
ご法話を熱心に聴聞されました。



10月12日(月)、13日(火) 秋季永代経法要が勤まりました。
遠近より有縁の方が多々ご参拝、ご聴聞なさいました。



「易往而無人」 = 「無量寿經」
疑い(自力)を誠(いまし)め、
眞実信心の得難さを示して
います。

ご住職より今年のテーマは何でしょうかと聞かれてすぐ「阿弥陀さま何処にいるの?」って出させていただいた。実際「いつでも阿弥陀さまと一緒にお話を聞いても、見えないし、実感がわからぬ」という方がおられます。だからこそ、私のうえに「ナモアミダブツ」と言葉の仏さまとなって今、私にはたらいてくださるのです。「そのままのあなたをひき受けたから、まかせよ」と常に



いたりとどいてくださってあります。そのお心を「慈悲」と顕されるのです。でも仏さまの慈悲は人間には解らないし、人間の世界には無いので、いちばん近いのが「親の愛情」として喻えられます。
しかし、なかなか気づかないので。私たちは、自分さえよかつたらいいという「我執」によって生きていて、結局は自分が苦しめられている。これが地獄です。

源信和尚はそのことを「我、今帰することなくして、孤独にして同伴なしこれを地獄」と教えてくださいました。居場所も無く、安心して帰っていける場所も無く、一人ぼっちで、自分を認めててくれる人も無いし、寄り添う人も無いということです。そして地獄は自分自身でつくり出していくものです。
だからこそ、あなたをほっておくことができないと、いまここに、いつでもどこでも、親が親であるために寄り添い、はたらいてくださってありました。



先日妻友を伴いドライブを楽しみました。札幌の近郊の恵庭にて、お蕎麦好きの私達は、昼食を頂いた後に、目的地の登別伊達時代村を訪れました。以前に京都の太秦映画村を夫婦で訪ねたことがあり、それ以外に時代村があることを知りませんでしたが、最近、テレビのCMにて登別に時代村があることを知り一度訪ねてみたいと考えていたので、それを実現しました。何の予備知識も持たないで同村を訪ねてビックリすることが多過ぎました。時代村は、太秦に負けない規模の広さです。登別伊達時代村にて、花魁ショーに出演する町人、お大尽遊びをする役に、観客の中から団申から男性客を選ぶのですが、此度はお客様は私一人です。当然に、その町人に私が選ばれて、お大尽遊びをする役を仰せつかりました。一瞬ですが気が動転しましたが、よし一丁遣つてみるかとの機に、無事ショーを終えました。花魁を演じる俳優さんが、余りにも美しいので、お大尽遊びをする方の気持ちが少しは解った気にさせられました。

（皆さん、是非一度、北海道へ遊びに来てください。

見る方が沢山有りますよ。お待ちして居ます）

北海道 大島義勝さん



西方に 光る芒野 淨土かな
夢に逢う 亡夫の面影 華の朝
農道の一直線や 鮎雲
わだかまり 解けてスッキリ 天高し
コスモスに 風やわらかく 遊びけり
コーヒーの ただよう厨 秋深し
独り居も 捨てがたきもの 水澄めり

落合登代子



■花魁ショーの最終演間際に、観客席に着いた

登別伊達時代村を訪ねた

十数年前に京都の太秦映画村を夫婦で訪ねた
T.V.の時代劇で観た町並と池に大いに感動
偶然に、侍姿の北大路欣也と鉢合わせをした

剣劇ショーにて、スターとの会話を楽しむ
(何だ、昔おねえさんか、に笑いが弾ける)



永代経法要のあと正覚寺様有縁方々との懇親会が持たれました。改めて深いご縁を感じます。戦後存仁寺は鈴鹿組に入りましたが、それ以前は「勢賀組」といわれ今の伊賀、鈴鹿、中勢組が一緒になっていた頃は津の組に入っていたのです。



報恩講のお参りの折には現在の芸濃、関、亀山の寺院と共に津の何力寺かのお付き合いもあったそうです。私の代になり、こうした

様々なであります。関わりあう不思議さのちはどこかでつながっているのだということをはだで感じことがあります。

これからも、であります。ご縁を大切にしてかなくてはならない

と、あらためて

味わったことでした。



■花魁ショーの途中に登別伊達時代村を訪ねた
京都の太秦映画村に劣らない町並に驚いた
忍者屋敷・からくり忍者ショー・妖怪屋敷
色々なショーの軒が連なり大賑わい時代村
(可愛い町娘の衣装に、かわいいねえーーー)

観客は、私達三人(二人)だけの花魁ショー

太鼓持ちの指示に従つて、扇子のセリフを熱演

(あいよ、おーいーと泣く、合点承知のすけ)

素人の大根役者が大汗を搔いての花魁ショー

シヨーに参加して、少しはお大尽の心を知つた

お酒は頂くが、お大尽遊びをしたことは無い

未だかつて、花魁遊びを経験したことは無い

人生一生に一度のお大尽遊びも悪くは無い

もう一度、訪ねてみたい登別伊達時代村だ

■花魁シヨーの最終演間際に、観客席に着いた
京都の太秦映画村に劣らない町並に驚いた
忍者屋敷・からくり忍者シヨー・妖怪屋敷
色々なシヨーの軒が連なり大賑わい時代村
(可愛い町娘の衣装に、かわいいねえーーー)

シヨーに参加して、少しはお大尽の心を知つた

お酒は頂くが、お大尽遊びをしたことは無い

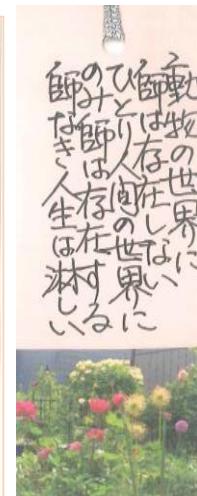
未だかつて、花魁遊びを経験したことは無い

人生一生に一度のお大尽遊びも悪くは無い

もう一度、訪ねてみたい登別伊達時代村だ



報恩講の
作品展示
にご協力
下さい



札幌市
大島光子
さん

暦の上ではもう冬をむかえます。おお、少し冷え
てきましたか。炬燵を出す時期ですね。炬燵に入
ると温かさを身に感じ「ホッ」とします。でも、
身だけではなく心もホッとさせていただきたいこ
とです。報恩講のシリーズ聴聞を通じて、あなた
の心にお慈悲のぬくもりを。くれぐれも、お大事
にお念仏ご相続。なんまだが、なんまだが